

座長講評 <第1部>

広島大学経済学部教授

地域経済研究センター研究員 松水征夫

それでは午前の部を担当しました私の方から若干感想を述べさせて頂きたいと思えます。本日、最初にも少しお話させて頂きましたように、センターの研究集会は今年で10回目を迎えたわけですが、今年から地方シンクタンク協議会、中国地域シンクタンク協議会のご参加によりまして益々活発なご議論がされるようになったのではないかと思います。センターの活動に関わってきた者の一人として大変喜んでおります。研究集会の2日目のシンクタンクの報告会というのは、産官学の連携を実践する場としてこれまで期待されてきたわけですが、シンクタンク協議会の皆さんに参加して頂きましたことによりまして、産官学の連携の輪が広がったのではないかと思います。関係者各位のご努力に感謝申し上げます。ご存じのようにセンターの専任者は、本日総合司会をして頂いております渡辺助教授と、受け付けをしています住吉助手の2名だけです。非常に限られた人数でセンターの運営がされているわけですが、現在のセンター長の戸田先生は経済学部からの兼任です。非常に少ない人員で最大限の努力をということで、関係者の方には非常に努力をしておられるわけですが、センターだけでできることは限られていることで、初代のセンター長である樺本先生のご発案によりまして、地域経済研究推進協議会というものを作って頂きまして、地域の行政の方や産業界の方あるいは大学関係者の方のご協力によりまして、ここまで運営されてきたわけですが、改めて地域経済推進協議会の皆様方並びにセンターの研究員とか客員研究員の方々のご支援にお礼を申し上げます。既に昨日センター長の戸田先生からお話があったかと思いますが、この地域経済研究センターというのは10年時限の研究施設でして、平成元年にできまして平成10年度まで存続するという事になっています。現在10年後をどうするかということで解散案等を検討しているところです。既にシンクタンクの方々には、センターの存続に関わる関係調査をさせて頂いておりますが、これまでの活動についてご了解を頂いていることでもあります。いろいろご注文もあるということで、今回新たにシンクタンク協議会のご参加を得ましたのも、そういう皆様のご意見に基づいて、より活発な活動をしたいというセンターの方向からきたものと思っています。今後ともご協力のほどお願いしたいと思います。また、戸田先生を初めとしてセンター関係者の方々にも、今後ともセンターの存続の為に最大限の努力を払って頂きたいというふうに思えます。私自身もセンターの関係者の一人ですが、私自身も最大限の努力はさせて

頂きたいと思っています。最初にちょっと講評とは関係のないことを言ってしまいましたが、今回10年目にあたりまして一言お話させて頂きました。

次は講評ですが、午前中座長ということをお聞きして3つの報告を済ませて頂きました。特に午前の部は今回新たに参加して頂きました徳島経済研究所、並びにとつと政策総合研究センターの方のご報告を戴きまして、従来聞けなかったような話を拝聴することができまして大変興味深く聞かせて頂きました。後で講評があるということで、私自身は何も質問させて頂きませんでしたが、若干それぞれの報告について感じたところがありますので、この場を借りてお話させて頂きたいと思います。

先ず最初の広銀経済研究所の榎原さんの高齢者介護に関する意識調査ですが、討論者の平尾先生が的確に評価をされまして、これからの高齢化社会の中で大きな問題となってくるテーマに関して非常に優れた調査をされて、特に地元の広島県にとってはありがたい調査結果を提示されたとも私も考えております。私自身ちょっと気になった事と言いますと、広銀経済研究所で推計された介護のいろんな高齢者の数の推計に関して、若干広島県の福祉課の方で推計した数字と異なるという数字を示されました。推計の方が異なるわけですから特に問題にすることはないかと思いますが、一つ気になりましたことは、90年から95年の移動率を前提にして広銀経済研究所で推計された結果であるわけですが、90年から95年といいますと、広島県の人口としては以前に比べると増加率は下がっているわけですが、人口としては増えているということです。また人口の増減をもたらす要因としては、人口の自然増と社会増減ですが、その辺の状況が今後とも続くことになるのかどうかというのが気になったところです。広島県でも経済の活性化の為、あるいは広島市でも経済の活性化の為にいろいろ施策をとっていますが、どうもこの中国四国地域をざっと見渡したところではあまり活性化が着実に前進しているとは見てとれないわけで、関西とか福岡の地域に比べると、若干経済が停滞しているというか、あまり大きな前進が見られないような気がします。中国5県の場合社会増が見られるのは、広島県と岡山県ぐらいだと思いますし、四国の場合も大きな社会増というのは見られないのではないかと思います。広島県の場合も施策が十分考慮されないと社会減になってくる可能性があるのではないかと思います。そうしますと若い人がだんだん減って高齢者の数が益々増えてくるということになりますと、高齢者の比率がますます高くなりますので、広銀経済研究所の方が推計された数値より更に介護を必要とする数というのは大きくなる可能性があるかと思いますが、広島県の発表されている数値とのギャップが益々大きくなる可能性もあるのではないかと思います。この辺はどちらの数値が正しいというものではないと思いますが、できれば県民のニーズに添うような的確な数値が出るようにどこかで調整をして頂ければいいなという感じがしました。

それから二番目の明石海峡大橋の通行料金問題で、徳島経済研究所の発表ですが、討論者の戸田先生が言われましたように、地域社会からも交通料金問題への提言としても、私自身も高く評価したいというふうに思いました。公共料金の決定の問題についてはい

ろい問題がこれまでも指摘されているわけですが、最近では公団住宅の家賃が引き下げられまして、いろいろ新聞紙上でも問題になったところでもあります。長期的にはこういう公共料金というものは需要と供給の関係で煮詰まってくるものと考えます。公団住宅の家賃に関しても、入居者が少ないということで空き部屋ができるということで家賃が下がったということです。しかしながら長期的にはそういう矯正が行われる可能性があるとしても、短期的には料金を決めないといけないということがあります。その場合にはやはり理論的にということになると、コストとベネフィットを如何に消化するかということで料金が決まってくるんだらうというふうに思いました。コストに関しては建設費ということではっきりするわけですが、ベネフィットということになりますと、橋などの場合は直接に橋を利用する人の便益が出てなくて、戸田先生も言われたように、海上事故が削減されるとか、地域開発が促進されるとか、目に見えない効果があるわけです。こういう開発利益の推計が非常に難しいということで、短期的には料金の設定が難しいということだろうと思いますが、徳島経済研究所の方で提示されたアンケート調査結果から出てくる結論と、最終的に今回発表された価格との間にあまり大きな差がなかったというのは、やはり徳島経済研究所でされた調査というものが何らかの意味で大きな役割を果たされたのではないかと、私自身も高く評価したいというふうに思います。

三番目の日本海新時代における国際物流拠点を目指してという、とっとり政策総合研究センターの三田さんの報告ですが、これもグローバル経済化の中で地域の発展の為にどうすればいいかということで、日頃研究しておられる成果を発表されたのではないかと思います。今回の研究集会のプログラムの共通テーマが、変貌するグローバル経済と地域の持続的発展ということですが、今回のシンクタンクの報告会の中でも一番共通テーマにぴったりするテーマは、このとっとり政策総合研究センターの報告ではないかと思います。地域がだんだんグローバル化する中で、地域の生き残りをかけた政策としてどういうもの考えたらいいかということで、ご提言では韓国の釜山を中心とする東南圏域との連携策を提言されたわけです。まさにグローバル経済時代の中の一つの優れた戦略ではないかというふうに私も拝聴しました。ただ、若井先生が言われましたように、境港の施策を考えあるいは鳥取も施策も考えるという中で、そういうグローバル経済化の中での戦略も必要かと思いますが、中四国の地域的なつながりの中での鳥取の役割、あるいは環日本海経済圏の中での境港の役割というふうな、国内の地域における役割分担あるいは連携策についてももう少し言及しておいて頂ければ、非常にバランスの取れたいい報告になったのではないかなと私自身思いました。非常に勝手な超越的な批判で恐縮ではありますが、非常に優れた報告を聞かせて頂きまして大変勉強になりましたが、報告を聞かせていただきまして以上のような感想を持ちましたので講評に代えさせていただきます。

座 長 講 評 <第 2 部>

岡山商科大学商学部教授

地域経済研究センター客員研究員 岡本輝代志

先ず最初にこの研究集会は10回目ということで本当におめでとうございます。先程、松水先生のお話を聞いておりました、センターができて10年ということで、非常に長居ようで短いようで私もその間何もしておりませんが、客員研究員ということで務めさせて頂いています。樺本先生から松水先生、戸田先生という三所長という歴史を持っているわけですし、それが10年だということです。恥ずかしい話ですが、本学にも経済研究所というのがありまして、たまたま私が所長をしています、先程の討論者の田中先生も前々回次長をして頂きまして、20年以上経っているわけですがここまでの成果を挙げていないわけで、今日改めて頑張らないといけないなということを感じています。そういう10年の中で産官学一体化という方向で活動されてきたわけですが、今回の研究者の報告のテーマを見ましても、これはまさにシンクタンクがこのセンターの研究集会によって、能力的に向上してきたなという感じを持っています。テーマだけ見ましても、現在の社会経済の新しいトレンドをとらまえた、まさにタイムリーなテーマばかりですし、討論者におきまして私が聞いた範囲では素晴らしい討論者を用意していただき、的確な討論やコメントをしていたように思います。私が聞かせて頂きました第2部の2つですが、これも先程の午前の部あるいは第3部を含めてそれぞれかなり関連があるような内容であります。ですからこれだけでどうこうというわけではありませんが、非常にマクロ的な意味においても細かいところにおきまして、非常に気配りのできた発表ではなかったかと思えます。その中で簡単に講評というか感想を申し上げたいと思えます。

最初の化学産業の環境変化と中国地域経済というテーマでの中西さんの報告ですが、私もたまたま3年前ですが、今日の報告の中の一つのコンビナートの所長でした旭化成の所長と2週間ばかり中国に行ってきました。その時にたまたま水不足でして、行っている間中大丈夫だろうかということをおっしゃっていました。その時に併せて言っていたのが、これからはアジアが競争相手国だと言っておられまして、いかにアジアに近づくかということをお心配しておりましたが、じわじわといわゆるニーズ諸国からアセアンに、そしてインドシナへとアジアの力が移り変わっています。その中でも中国・インドというのは非常に興味を持っていただき、中国の動きというのは我が業界においても怖いものがあるということですし、そのことが今日の発表の中にアジアの推移も含めて、日本の動向あるいは中国地方の動向を含めて発表しておりましたので、より先見の明がある報告ではない

かと考えています。その中で2000年におきまして供給超過になると、この供給超過になる場合にどうするかという分析の内容がちょっと弱かったのではないかと思います。更には一番最初に地域産業という視点から調査をし発表するという中におきまして、やはり地域産業という捉え方がちょっと弱かったかなと、更に地域というものの捉え方がもう少しあればなという感じを受けました。そういったことで石油化学産業が、これからの中国地方の基幹産業の一つであることは間違いないでしょうが、じわじわとウエイトが減っていつている中で地域での関わり方というものを、もう少し絞って分析されたらよかったのではないかと思います。

それから第2番目の山陰の住宅関連産業の現状と展望という雑賀さんのご報告につきましては、たまたま私は1級建築士もやっています、住宅開発等あるいは契約のモデルパターンを開発して提示したこともあります。その中で討論者の戸田先生が、住宅を買う側のニーズ分析がもう少しあったらいいなということでしたが、まさにそうだなという感じで私も受け止めております。現在この平成10年4月から住宅あるいは大きな工事を含めて非常に落ち込んでいますから、これからの推移がこのデータ通り行くかどうかというのは非常に難しいと思いますが、プレハブ業界の対応を考えていますと、まさにニーズを掴まえた声の対応といいますか、大衆・群衆・個という言葉がありますが、一人一人の対応というものを非常に積極的に考えています。プレハブ産業が発達した頃というのは、住宅の標準化を目指してやってきたわけです。ですから限りなく現場比率といいますか、プレハブ化率を高めていくという中で進めてきたわけですが、今はここになりましてそれと併せて個への対応、一人一人に対する対応というものが非常に強調してきていますので、それを考えると木造住宅というのは非常に個への対応がしやすい住宅の種類になるわけです。ですから山陰地方というのは木材森林関係が非常に豊富であるということですが、県内産あるいは山陰産を使いながら、個への対応をしていくという業域では、これからまさにある意味での明るい方向が見えるのではないかと思います。ただその中でそうは言っても外材の導入がどんどん増えています。現在私も森林組合というところの仕事をしていますが、これはもう組合の存続が危ないというくらい地元産の需要が減ってきています。コストの問題でして、あまりにも高すぎるといえることです。ですから山陰の住宅産業におきましても、地元如何に木があっても、その木を使って家を建てるほどこれから豊かであるかどうかということも考えていかなければならないと思います。共通点としてはそれぞれにおいて国際的視点というものが非常にクローズアップされているのではないかと思います。更にそれがなければこの二つの問題というのは解けないような気がします。特に住宅関係者におきましては、最近輸入住宅というものが非常に一般化してきていますが、今後規制緩和が進む中で、より価格が安くなるでしょうし、いわゆる物を屋内で作るというだけでなく、出来上がった物を外国から持ち込むという、素材だけでなく商品そのものを持ち込むという時代にもなってくるというようなことになるのではないかと思います。

最後にそれぞれの中でちょっと考えておいて頂きたいのは、これからの中四国の中で国際化を睨んで非常に大事な点というのは港の問題ではないかと思います。現在もこの中四国あるいは九州も含めて、港の機能で一番強いのは神戸です。震災によって若干力を落としたと言われていますが、神戸の力というのは群を抜いています。更には東京の周辺とかあるいは名古屋港、この辺りを除けますと弱い港が中四国には存在しています。広島港が頑張っても国際的にはまだ弱く、境港の話もありましたが、食料品以外の物に対するアプローチができる港造りと、今言いましたそれぞれの産業との関連ということも考えていきますと、より陸付けができるのではないかと思いますので、シンクタンクの皆さん方あるいは我々研究者も含めて、新しい方向を取り入れた研究をしていきたいと思っておりますので、今後ともセンターの皆さんには宜しくお願い致します。簡単ですが感想に代えさせていただきます。

座 長 講 評 <第 3 部>

山口大学経済学部教授

地域経済研究センター客員研究員 吉 村 弘

講評ということですが、講評になりますかどうか分かりませんが感想を述べさせていただきますと思います。岡本先生からお話がありましたが、このセンターは10年ということで、これはサンセット方式というので作られていまして、10年は保証するがそれ以後は成果次第で潰すかもしれないということのようで、大変結構な発想だと思っています。すべてこうでなければならぬその模範みたいなものですが、文部省の方に成果を報告して次の予定を出して、良ければ11年目からも認めようということのようです。私もいろいろ伺いますと、いろいろそういうのが出ているようですが、その中でこのセンターが最も顕著な成果があったというものだと聞いています。従って11年目以降も予算が当然つくというか、廃止されることはないんだろーと思っています。この行政改の世の中に、だろーと思うのですが、その中の大変大きな貢献の一つがこのシンクタンクの報告会です。報告会だけではありませんが、産学官の共同の中の一つとして大変高く評価されているものであるように思います。今後とも進めて頂けたらと思います。

最初の報告の愛媛の大型小売店の出店状況ですが、大変丁寧な説明でした。討論者の川邊先生も仰っていましたが、愛媛のことが少し分かったようなそんな気がしました。川邊先生も仰っていましたが、愛媛県は四国では一番大きな県ですが、しかしその割りにどうして大型店の出店が少し遅れ気味なんだろーか。あるいは逆転の可能性はどうなんだろーかということがあります。私もちょっとそんな気がしました。あるいは四国の中心が松山から高松に移って、つまり愛媛県のダイナミックさの欠如と何か関係があるのかなと、そんな気がして聞かせて頂きました。それから町づくりと大型店の関係についてのご指摘を討論者の川邊先生の方から戴きました。私もこの点がちょっと気になっていました。と申しますのは、このご報告はテーマもそうになっていますが、出店状況あるいは現状というふうになっていますが、それはそれで結構だと思いましたが、もう少し広げてというか課題とか問題点とか展望とかいうふうなものにぐんぐん切り込んで頂きたいなという気がします。ディスクリプティブというか記述してこうだあだというのは勿論前提ですが、それであってだからどうなんだというような積極的な切り込みが欲しいなという気がしています。特にこの大型小売店の問題は、今ここだけではなくて全国で問題なんです。特に大店法との問題では大変大きな問題です。それは三つの関係があると思いますが、中心商店街と郊外の大型店ともう一つはコンビニの問題だと思っています。

山口でも大きな問題になっていまして、中心商店街の人は大型店が郊外にできるからやれんと言いますが、しかしどうも今うちの学生が卒論で調査をしています、いくらか結果が出ている所を見ますとそれだけではなく、千平米よりは小さいコンビニがたくさん出ているので人口10万程度の中心商店街、5万以下だったらもっとですが、中心商店街が喰われているんだということです。必ずしも郊外大型店だけではないと思います。今やコンビニは全国的に非常に増えていて、百貨店とは違って伸びているわけです。それと郊外の大型店と中心商店街、中心商店街は今のところ私は日本全体が第2の農業問題になるだろうと思います。つまり補助金はつき込むが生産性は上がらない、無駄をする代表のものの次になるのではないかと。しかし圧力団体ですから大変な票がありますので、そうしますとこれが消費税の反対の時と同じように、補助金行政に頼るようになります。つまり第2の農業になります。しかし日本の生産性を上げるのに貢献しない、そういうふうになるのではないかと心配しています。大店法との関係です。そうしますとニーズが多様化したり、それから今の町づくりの点から、大店法がいろいろ右往左往していますが、その中で中心商店街・コンビニ・郊外大型店は今日本の中における普遍的な問題で、地域においてどこでもみんなあって、とりわけ中山間地域というか100万以上の都市でない30万以下の都市では、中心商店街が壊滅しつつあるわけです。これはその地域の文化にとっても非常に大きな問題で、バッファとしての雇用力にとっても大きな問題です。そういう点にまでぐっと切り込んで頂きたかったなという気がしました。少し超越的で申し訳ないのですが、そんなような感想を持ちました。大変愛媛のことがよく分かりまして、ありがたいと思っています。

二番目の岡山県の拠点性について—最近の倉庫業界の事例を中心にとということですが、二番目も今の愛媛の例と同じように大変時宜を得たもので、特に拠点性を倉庫業を通して見ようというのはテーマとなり得ると、また更になり得るというふうに思っています。特に今ちょうど道路ができていますし、時宜を得ているというふうに思います。そして活発化の要因として三つ挙げていますが、データーとしても大変説得的であったと思います。田中先生からコメントを3点戴きましたが、取り分け最後の点でミクロ的視点が必要で、実態調査を通じて物流コストの点から考えて、やっぱり岡山に住んでいいんだという点が重要だという話がありまして、それから生活提言があるという話がありましたが、なるほどそうだというふうに私も思いました。そういう点を踏まえて考えますと、岡山の倉庫業は非常に注目し値すると思っています。ちょうど中四国の十字路にあたりますし、ところが拠点を失う危険があるのではないかとご指摘がありました。私は中四国の方にいらんだ時のそれもあると思います。しかしもっと重要なのは大阪圏に飲み込まれるだろうという予想です。特に四国が明石に橋ができますと、あちを通って岡山を通らずにすいすい行くようになると、そうすると高松の四国における拠点性は失われるだろう。つまりあまりにも近すぎて大阪圏の中に飲み込まれるだろう。従って国土庁がいまやっている中核市といいますか六つの大きな市、新潟とか岡

山とかが入っていますが、その中に松山は入っていますが高松は選ばれていませんでした。何故か、今だったら四国経済連合会も四国電力の本社も高松にありますから高松が中心なんですが、そうではないんだということをあれは暗示していると思います。何故か、それは大阪に近すぎるということで、大阪に飲み込まれるんだと私は思っています。そういう点を考えると岡山もおそらくそうなるのではないか、つまり中四国を睨んだ所にあるけれども、岡山は大阪との近さ加減においてむしろこちらの方こそ大問題だろうと。岡山にとって大問題で、日本にとってはどうということはありませんが、そうであろうというふうな気がしています。それからおそらくこの物流の問題は、地域経済にとって非常に重要になります。つまりデジタル化できないものは物と人間、これが大事なわけです。これは今から非常に問題になります。その中で物の方ですが、地域にとって大変重要になってくるだろうと思います。その点でまだまだこのテーマは展開する余地が大いにあるなという気がしています。これも大変超越的なことになりましたがそんな気がしました。

それからもっと超越的な話ですと、グローバルという昨日からの共通テーマの点では、どちらもあまり原型がなかったように思いますが、ただ無くてもそれはそれなりに評価はし得ると思えました。結び付けることも可能ですが、しなくても問題点はいろいろあるというふうに私は思いました。後でもし許されるとしたら大変超越的ですが、地域の経済を見る時に、これはこうなっているあれはこうなっているという、経済学ではそれをよくディスクリプティブな分析といいます。それを通して問題点を出してくるというやり方、これは一番基礎になるものです。もう一つ進みますとそれを基にして、より一般的な傾向性とか一般的な関連性、ここだけ見たらこうだというのではなく、余所で見てもこれとこれとは関係があるというふうなことを、事例をたくさん挙げて一般化していくという努力がやはり必要であろうと、あるいはそれが私達の仕事なのかもしれませんが、そういう方向に向けていきながら、自分たちの具体的に取り組んでいるテーマを見るという姿勢も必要になってくるのではないかと、そんなような気がしました。少し超越的になりましたがそんな感想を持ちました。大変勉強になりました。どうもありがとうございました。